

東シナ海ブロック水産業情報

No. 132(2026年1月~3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 【カキ養殖】 筑前海全体の生産量は好調。カキ小屋での販売を中心に出荷。 一部の海域で、昨夏のへい死の影響で収穫量が減少。 【ワカメ養殖】 2月中旬以降、栄養塩が低い状況が継続したが、生産は好調 【アカモク養殖試験】 種苗生産したアカモク幼体を、沖出しし養殖試験を実施。</p> <p>○有明海 ・ノリの秋芽網は1/11までに撤去され、冷凍網出荷は1/13から開始された。 ・1月下旬から珪藻プランクトンが増加して栄養塩が減少し、月末には色落ちが発生。2月上旬には全域で重症化した。 ・ノリ網は4月8日までに撤去、支柱は4月30日までに撤去が終了した。 ・1月に発生したスケルトネマ、キートセロスの珪藻赤潮は、3月下旬まで継続した。 ・最終的な生産枚数は7億9千6百万枚(過去5年比83%)、生産金額141億1千2百万円(過去5年比94%)、平均単価17.73円(過去5年比+2.02円)であった。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・収穫量は平年並。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、「網袋」による干潟での保護・育成試験を実施中。</p>	<p>○有明 (ノリ養殖) ・冷凍網期は、過去最も遅い張り込みとなり、東中部が1月27日、西南部が2月23日となった。また、西南部では、全数を出庫せず比較的栄養のある漁場を中心に張り込むこととなった。出庫後の戻りは、一部入庫の際伸びすぎて乾きの鈍い入庫網を中心に戻りが悪かったものの、全体的に良好であった。 ・1月30日にスケルトネマとキートセロスの混合赤潮が発生し、東中部地区で色落ちが認められた。赤潮は3月2日まで続き被害は大きかった。また、水温が上昇してきた2月下旬以降はアカグサレ病の被害も拡大し、製品の質が低下し生産枚数は伸び悩んだ。 (カキ養殖) ・大浦地区の令和7年度のマガキ養殖生産は、夏季の高水温(6月から10月にかけて表層水温が平年よりも高く推移)が原因と思われる成長不良が確認されたものの、大量へい死はなく、順調に養殖がおこなわれ、生産量は約40tを見込んでいる(現在集計中。令和6年度生産量は24t)。令和8年度の生産は、令和8年1月に種ガキを購入し開始されている。購入された種カキは、大浦地先の干潟で抑制飼育を行い、養殖いかだへの種カキの垂下は、早い者は3月初旬から順次行われ本養殖が開始されている。</p> <p>○玄海 ・アカウニ15万個配布中 ・アオナマコ 稚ナマコ270万個体飼育中 ・アカナマコ 浮遊幼生1500万個体飼育中</p>		

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県